

スラブ・ユーラシア研究センターのディビッド・ウルフ教授がフンボルト賞を本学初受賞
内閣府が「北海道プライムバイオコミュニティ」関連施設を視察
第1回北の森林サイエンスCAFEを開催

お知らせ

・被扶養者の要件の確認





スラブ・ユーラシア研究センターのディビッド・ウルフ教授がフンボルト賞を本学初受賞



内閣府が「北海道プライムバイオコミュニティ」関連施設を視察

全学ニュース

- 1 スラブ・ユーラシア研究センターのディビッド・ウルフ教授がフンボルト賞を本学初受賞
- 2 令和4年度北海道大学公開講座（全学企画）『コロナ時代の新常識』を開催
- 3 令和4年度北海道大学レーン記念賞授与式を举行
- 3 令和4年度北海道大学宮澤記念賞授与式を举行
- 4 令和4年度北海道大学新渡戸賞授与式を举行
- 4 科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催
- 5 さくらサイエンスプログラム オンライン大学訪問を日本科学技術振興機構と共催
- 6 内閣府が「北海道プライムバイオコミュニティ」関連施設を視察
- 7 令和4年度第4回 定例記者会見を開催
- 8 北大フロンティア基金
- 10 2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 1st Batchが無事終了
- 11 DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏が北海道大学を訪問
- 12 スタートアップ・エコシステム形成支援HSFCプラットフォームキックオフミーティングを開催
- 13 令和4年度第1回サステナビリティ推進員会議を開催

部局ニュース

- 14 理学部でキャリアパス企画「キャリアカフェ」を開催
- 15 令和4年度理学院優秀研究奨励賞授与式を举行
- 16 学生企画ワークショップ「ミュージアム・フォト・ウォーク」を開催
- 17 2022年夏・学生企画の新たなミュージアムグッズの販売開始 —「ゾウ&マンモス風呂敷」「発掘！ランダムシール 古生物&土器」—
- 18 歯学研究院デンタルイノベーションスペースに北海道曹達株式会社が入居
- 19 メディア・コミュニケーション研究院が公開講座「ベルリン：都市は変貌する」を開催
- 20 「ようこそ北大へ！—新生活を彩る、役に立つ！おすすめ本—」図書展示を開催
- 21 附属図書館で「Mendeley（メンデレー）」オンライン講習会を開催
- 22 スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム「アナキスト的転回？長い20世紀における帝国支配と抵抗」開催
- 23 情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターが「Security College for Youth 2022 step 1」を開催
- 24 第1回北の森林サイエンスCAFEを開催

お知らせ

- 25 被扶養者の要件の確認

表敬訪問 26

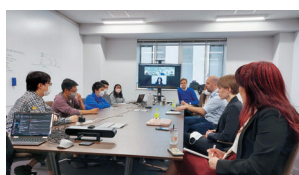
人事 27

訃報

- 28 名誉教授 加藤 誠 氏



令和4年度第4回 定例記者会見を開催



DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏、北海道大学を訪問



2022年夏・学生企画の新たなミュージアムグッズの販売開始 —「ゾウ&マンモス風呂敷」「発掘！ランダムシール 古生物&土器」—



歯学研究院デンタルイノベーションスペースに北海道曹達株式会社が入居

表紙：第1回北の森林サイエンスCAFEを開催（関連記事24頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景② エルムの森（北10条西8丁目）

■全学ニュース

スラブ・ユーラシア研究センターのディビッド・ウルフ教授が フンボルト賞を本学初受賞

スラブ・ユーラシア研究センターのディビッド・ウルフ教授がフンボルト賞を本学で初めて受賞しました。同賞は、ドイツ政府が全額出資するアレクサンダー・フォン・フンボルト財団が創設したドイツで最も栄誉ある学術賞です。基礎的な発見、新しい理論あるいは発見が、当該研究領域を超えて永続的な影響を及ぼし、さらに、将来も優れた研究を生み続けることが期待される研究者に与えられます。これまで日本人では、小柴昌俊、村山斉、小林俊行、野水克己ら自然科学の研究者が受賞しています。

受賞はウルフ教授の30年間にわたる、20世紀ロシアのアジアにおける活動の歴史についての研究に対するものです。同教授のハルビンに関する著作（To the Harbin Station、Stanford、1999/ 邦訳『ハルビン駅へ』講談社、2014年）は、新しい帝国論の基礎的な

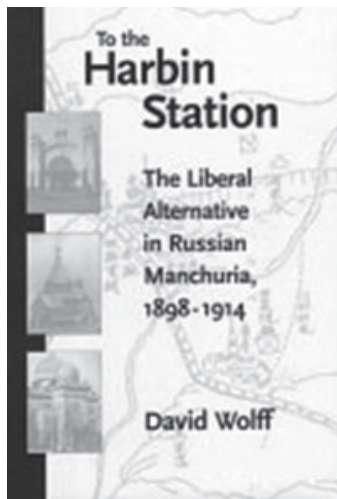
テキストであると見なされており、従来は機密文書とされていた文書館史料による覇権主義の慣行についての、より広範で、きめの細かい分析に基づくものでした。同教授が編集あるいは共同編集された書籍や雑誌の特集号では、30人以上の日本人歴史家によるエッセイや論考を含む、多くの北東アジア研究の成果が英語圏の読者に紹介されました。ウルフ教授は、4つの大きなプロジェクトを進めている最中で、これまでの研究よりもさらに影響力のある研究成果を出す可能性があると考えられています。

この10年間、ウルフ教授は、本学とルートヴィヒ・マクシミリアン大学（ミュンヘン）の間の学術協定に基づいて、アジアにおけるロシア研究のために新たに設けられた教授ポストと緊密に協力してきました。これは、ロシア東方研究のためのヨーロッパで唯一

の学術ポストであり、現在、ロシア医学史の著名な専門家であるアンドレアス・レンナー氏がこの教授になっています。ウルフ教授は、同大学で講義を行い、同大学にスラブ・ユーラシア研究センターの2人のポストドクを派遣したことに加えて、同大学の高等研究所を訪問し、北太平洋のイニシアティヴというテーマでモスクワのドイツ歴史研究所との間で研究協力をを行い、ハイデルベルク大学の北太平洋に関する叢書の編集顧問を務めました。このようなドイツとの密接な研究協力も高く評価されました。

授賞式は、2023年6月にベルリンで開催されるドイツ大統領主催の晩餐会で行われる予定です。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



ウルフ教授の著作『ハルビン駅へ』



ウルフ教授

令和4年度北海道大学公開講座（全学企画） 『コロナ時代の新常識』を開催

6月9日（木）から7月28日（木）まで、本年度の公開講座（全学企画）をオンラインで開催しました。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、経済や社会に多大な影響を与え、私たちの日常生活や価値観を劇的に変化させました。今後、いかなる形でパンデミックが収束をみるとしても、これまでに起きた変化には不可逆的と思われるものが多く、様々な分野で新たな「常識」が生まれている状況です。これらの状況を踏まえて「コロナ時代の新常識」を共通のテーマとし、公開講座実施専門部会（座長：鈴木 仁 地球環境科学研究院教授（当時））において全学から選ばれた8人の講師が、それぞれの専門分野からこの共通テーマを受け止める形で講義を行いました。

講義では、会計学、下水疫学、薬学、心理学や看護学など幅広い専門分野から、コロナ禍を通じた変化に関する最新の研究や社会の動向について取り上げました。

講義後の質疑の時間には、受講生からの熱心な質問があり、受講生の意欲の高さを感じられるとともに、講義内容の理解を深める貴重な時間となりました。

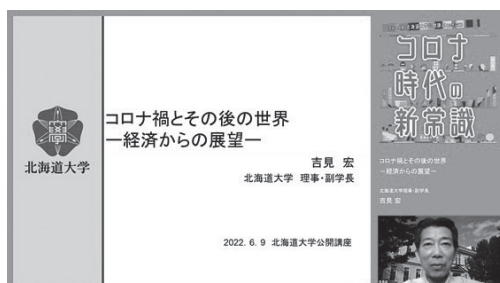
昨年度に引き続きオンライン開催と

したため、道内外から87名が本講座を受講しました。今年度はオープンエデュケーションセンターの協力を得て、リアルタイム配信に加えてアーカイブ配信も行いましたので、都合の良い時間に受講できると大変好評でした。全学企画だからこそ提供できる本講座の学びについて、多くの受講者から、講義内容の幅広さと深さ、講師のわかりやすい説明に高い評価が寄せられました。

（学務部学務企画課）

各回の講義題目と講師

- 第1回「コロナ禍とその後の世界－経済からの展望－」
（北海道大学理事・副学長 吉見 宏）
- 第2回「新型コロナの唾液検査の開発秘話から読み解く新型コロナの今後」
（医学研究院 教授 豊嶋 崇徳）
- 第3回「心理学から見たマスク生活でのコミュニケーション」
（文学研究院 教授 河原 純一郎）
- 第4回「下水疫学に基づく新型コロナ流行実態の把握」
（工学研究院 准教授 北島 正章）
- 第5回「ナノテクが薬を変える！？」
（薬学研究院 助教 中村 孝司）
- 第6回「新型コロナ治療薬の開発：北大創薬センターの取り組み」
（薬学研究院 教授 前仲 勝実）
- 第7回「シニアの気持ちと活動：コロナ禍を経験して見えてきたこと」
（保健科学研究院 准教授 平野 美千代）
- 第8回「新型コロナウイルスとナッジ政策」
（経済学研究院 教授 橋本 努）



吉見理事・副学長による講義



質疑応答を行う経済学研究院の橋本教授（写真上）と
高等教育推進機構の三上直之准教授（写真下）

令和4年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙

6月21日（火）、高等教育推進機構において、令和4年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙

行了。レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め411名の学生に授与されています。

授与式は、受賞者8名のうち7名が出席し、山口淳二理事・副学長、渡邊洋名誉教授、外国語教育センターの奥聡教授及び土田映子教授、平田公明学務部長の列席のもと執り行いました。

最初に、奥教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・Mレーン（Harold M.Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで、山口理事・副学長から受賞

者へ賞状、記念メダルが授与され、「ハロルド・Mレーン先生のように、皆さんも周りの人から敬愛されるよう、また世界にはばたく人間となるよう、身につけた英語力により一層磨きをかけ、国際性豊かな人間として周囲から親しまれる社会人を目指してください」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）



受賞者記念撮影



授与式の様子

受賞者

文学部	石 本 万 象
教育学部	藪 本 佳 奈
経済学部	生 田 千 晶
医学部	吉 村 榛 人
医学部	嶋 本 誠 児
工学部	川 合 香 奈 衣
工学部	小 浦 姿
農学部	鵜 飼 夕 菜

令和4年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙

6月28日（火）、高等教育推進機構において、令和4年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙

行了。宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が8回目となります。

授与式は、受賞者10名のうち8名が出席し、山口淳二理事・副学長、奥

聡外国語教育センター長、平田公明学務部長の列席のもと執り行い、山口理事・副学長から受賞者へ賞状が授与され、宮澤・レーン事件や宮澤弘幸氏が国際的な活動に熱心な学生であったことについてのお話と共に、「本賞の主旨を理解し、今後、益々活躍することを期待しています」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）



受賞者記念撮影



授与式の様子

受賞者

文学部	寺 村 拓 飛
文学部	門 司 奈 乙
文学部	渡 部 正 稔
文学部	成 田 陸 人
教育学部	安 井 千 遥
法学部	荒 木 裕 介
法学部	菊 地 アルドレン
法学部	富 樫 慶 宣
法学部	後 藤 有 希
経済学部	前 田 怜 南

令和4年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行

7月12日（火）、高等教育推進機構において、令和4年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行了しました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。

授与式は、受賞者13名のうち11名が出席し、山口淳二理事・副学長、平田

公明学務部長列席のもと執り行い、山口理事・副学長から賞状が授与され、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を深め、学問に精励し、これからの大学生活をより一層有意義なものにすると共に、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	吉江	健太郎
教育学部	小林	龍馬
法学部	小川	奈々
経済学部	逸見	京花
理学部	相内	達真
医学部（医）	古賀	多祐人
医学部（保健）	川橋	陸
歯学部	本村	優未子
薬学部	手塚	かなめ
工学部	兼田	大生
農学部	佐藤	桃
獣医学部	本田	啓汰
水産学部	本名	弘忠



受賞者記念撮影



授与式の様子

科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催

7月22日（金）、学術交流会館において、科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催しました。

本説明会は、科学研究費助成事業（科研費）の円滑な実施に資することを目的として開催したもので、独立行政法人日本学術振興会から講師として研究事業部研究助成第三課の安東正隆専門員を招へいし、「科研費制度の概

要」「科研費の応募・審査」「科研費の管理と適正な執行」「研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止」等について講演していただきました。

当日は、各部局等において科研費に係る事務手続や経費管理、研究室の研究支援業務に従事している実務担当者約100名の他、道内国公立大学の実務

担当者約20名が参加し、参加者から科研費の使用方法や事務手続について多くの質問が寄せられたほか、説明会後も活発な意見交換が行われ、大変有意義な説明会となりました。

（研究推進部研究振興企画課）



講演の様子



講師の安東専門員

さくらサイエンスプログラム オンライン大学訪問を 日本科学技術振興機構と共催

7月16日（土）、日本科学技術振興機構（JST）との共催により、「さくらサイエンスプログラム オンライン大学訪問」を開催しました。

本イベントはJSTが海外の高校生・大学生を対象に、日本の大学を訪問しているかのような疑似体験をオンライン上で提供し、日本への関心と留学意欲を高めてもらうことを目的として2020年12月から毎回異なる大学と実施しているもので、今回本学と共催する運びとなりました。

本イベントでは、理学院2年のSUPHAPOLTHAWORN Suphakornさんが司会を務める中、JSTさくらサイエンスプログラム推進本部の岸 輝雄本部長からの開会挨拶に続き、寶金清博総長からビデオメッセージでの挨拶が行われ、本学から2名のノーベル賞受賞者を輩出したこと、THE インパクトランキング 2022で高い評価を受けたことなどを紹介しました。

続いて、高橋 彩副理事による大学

紹介が行われ、北海道や本学で学ぶ魅力の他、現代日本学プログラム課程及びIntegrated Science Programの説明を行いました。

伊藤 肇教授（工学研究院/化学反応創成研究拠点）による模擬講義では、“Mechanochemistry: Revolution of Material Production”（メカノケミストリー：材料生産の革命）と題して、有機溶剤を使わずに「機械的な力」で化学反応を引き起こすメカノケミストリーと呼ばれる最先端の研究分野について講演を行いました。引き続き行われたラボツアーでは、普段は見ることのできない創成研究機構の実験室を紹介した他、実際に実験中の学生にインタビューを行うなど、研究の醍醐味を伝える機会となりました。

石見 禎講師（メディア・コミュニケーション研究院）がモデレーターを務めた外国人留学生による留学生活紹介では、現代日本学プログラム課程のRIOS Joseさん、Integrated Science

ProgramのWANG Maiaさん、QURESHI Irtazaさん、RIEWLUANG Sirateeさんが登壇し、北海道や本学での留学生活で気に入っていること、留学生活で直面した課題や経験から学んだことなどについてそれぞれ紹介しました。

最後の質疑応答セッションでは、高橋副理事、伊藤教授及び留学生2名が再登壇し、イベント中にウェビナーQ&Aボックスに寄せられた質問の中からいくつかピックアップし、ライブで回答しました。

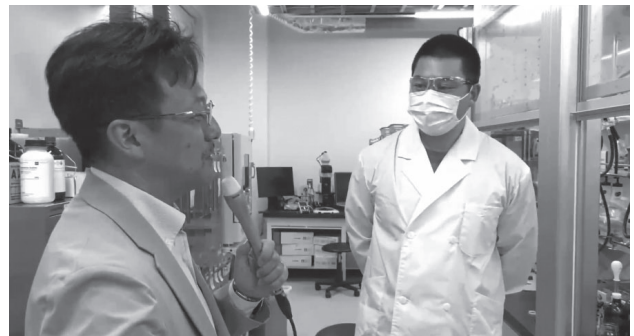
当日は世界42の国と地域から1,886名の参加があった他、170件を超える質問が寄せられ、本学や日本の大学への関心の高さがうかがえました。なお、本イベントの収録動画は以下のJST特設ページで視聴可能です。

<https://ssp.jst.go.jp/en/jst/online/online16.html>

（国際部国際連携課、学務部入試課、
社会共創部広報課）



外国人留学生による留学生活紹介



ラボツアーで学生にインタビューをする伊藤教授



質疑応答セッションの様子

内閣府が「北海道プライムバイオコミュニティ」関連施設を視察

7月27日（水）、内閣府のバイオコミュニティ推進委員（主査：上山隆大総合科学技術・イノベーション会議議員）が、「北海道プライムバイオコミュニティ」関連施設を視察されました。

委員は、まず農学研究院で野口 伸教授からスマート農業の取組に関する説明を受けた後、浦臼町の無人ブドウ剪定車両を遠隔操作する様子を視察されました。また、同研究院の曾根輝雄教授から、本年4月に開設された北海道ワイン教育研究センターの取組説明を受け、センター棟としてリノベシ

ョン予定の旧昆虫学及養蚕学教室と旧昆虫標本室を視察されました。

続いて、委員は北方生物圏フィールド科学センターの宮下和士センター長らの案内で第一農場の畜舎を視察。さらに、工学研究院の石井一英教授らの案内でロバスト温室を視察されました。その後、工学研究院で石井教授がプロジェクトリーダーを務める共創の場形成支援事業「地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点」の取組について意見交換を行いました。

最後に、委員から視察の講評をいただくとともに、寶金清博総長との意見交換が行われました。

なお、委員は、北海道プライムバイオコミュニティ関連施設視察の前日26日（火）にも、大学改革や地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについて寶金総長と意見交換され、化学反応創成研究拠点（ICReDD）やグローバルファシリティセンターを視察されました。

（社会共創部社会連携課）



第一農場での視察の様子



ロバスト温室での視察の様子

令和4年度第4回 定例記者会見を開催

7月14日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。

吉見 宏理事・副学長（広報・社会連携室長）の進行のもと、理学研究院の相馬雅代准教授が発表し、北海道教育庁記者クラブ加盟社等から4名の参加

がありました。発表内容は以下の通りです。

（社会共創部広報課）

発表事項（発表者）

・鳥の研究から人間を知る （理学研究院 准教授 相馬 雅代）

※発表資料掲載URL

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/pr/press-conference/R4.html>



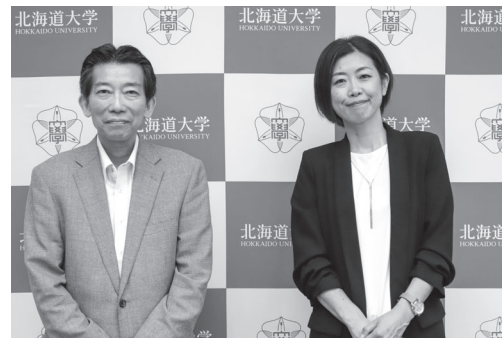
定例記者会見の様子



発表を行う相馬准教授



記者からの質問に答える相馬准教授



吉見理事・副学長と相馬准教授

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（6月30日現在）

34,125件 5,931,481,799円

6月のご寄附状況

法人等27社、個人610名の方々から15,836,331円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アスクゲート、アンサンブル・フラテ、株式会社エイト、江別市立病院、エモーショナルリンク合同会社、
社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院、クボタ環境エンジニアリング株式会社、株式会社クレタ、有限会社札幌庭園工業、
医療法人社団 札幌道都病院、しべつ内科クリニック、ジャパンレンタル株式会社、善端水産、大日本印刷株式会社、
社会医療法人 平成醫塾 苫小牧東病院、株式会社ナゴウェブ、柏楊印刷株式会社、株式会社 馬場本商店、平尾建築事務所、
医療法人健祈会 松本呼吸器・内科クリニック、マルトマ苫小牧卸売株式会社、株式会社RUNWAYS、株式会社リクエストエージェント

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	会田 和男	青木 俊介	青木 宏之	赤坂 昭博	朝比奈 肇	阿部 雅史	猪狩 智生
池本 弘之	石田 克平	一坊寺英夫	伊藤 清治	伊藤 広一	伊東 正剛	伊東仁慈子	稲辺 隆史
猪股 路子	井原 博	入澤 秀次	内山美也子	馬詰 裕道	梅本 由佳	浦 信行	枝澤 寛
縁記 和也	遠藤 公憲	大島 稔彦	大野 耕一	大原 正範	奥芝 俊一	奥田 英信	小沢 研二
小澤 信一	小田原一史	小野 善平	小原 大和	角田 登	加藤 紘之	金川 眞行	兼田 博司
兼平 孝	河本 充司	木暮 靖志	岸 海斗	衣川 暢子	木村 祐介	葛綿 正一	久野 由博
久保田 充	黒郷多津子	合田 泰之	上月 浩	小林 賢人	齊藤 晋	齋藤 卓哉	齋藤 久
坂本 大介	佐藤 惣人	三升畑元基	志済 聡子	下沢 英二	下島 清子	下村 礼子	菅原 新也
杉江 和男	杉原 柊哉	杉山 正	鈴木 誠一	鈴木 貴之	須藤 進	関口 昌人	瀬名波栄潤
相馬 満	高木 勲	高島 利彦	高橋 英樹	高畑 望	高林 秀樹	武井 理	竹林 圭介
巽 聡子	館沼 良充	田中 稲藏	田中 一哉	田中 伸哉	谷野美智枝	千葉 成子	塚田 明稔
土川 陽子	土家 琢磨	寺澤 睦	照屋 均	峠館 幸子	道免 寛充	富永 崇司	豊田 威信
樋本 毅	長岡 宗男	中田 久雄	中塚 英俊	中野 高広	中村 昌弘	中村 楯夫	西田 実弘
野口 豪	萩原 寛司	花田 秀一	花田 眞吉	花田 裕子	浜野 哲男	原 敬志	原田 耕
春川 幸代	番場 堅	廣木 誠	弘光 武雄	福士 幸治	福永 悟郎	藤川 秀樹	藤澤 裕子
藤田 美芳	二村 孝文	細田 朋彦	堀江 直人	本田 精一	本田 孝雄	前田 博	眞崎 剛瑠
増山 邦彦	町田莊一郎	松原 謙一	丸岡 隆之	三浦 悟	水木 伸一	三田部 充	三橋 隆志
南 修	宮澤 達也	宮田 信幸	宮本 雅章	村上 泰一	村瀬徳啓充	八重樫幸一	八木 勉
矢嶋 剛	安江 健	柳谷 君予	山岸 秀子	山口 彰	山口 圭介	山口 健輔	山口 淳二
山田 澤明	山本 正	湯川 康史	横田 篤	横山 考	吉田 広志	渡辺明日香	渡辺 勝重

銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

(個人)

大島 稔彦、大野 耕一、野口 豪、藤川 秀樹、安江 健

(法人)

江別市立病院、株式会社 馬場本商店、医療法人健祈会 松本呼吸器・内科クリニック、医療法人社団 札幌道都病院

〈感謝状の贈呈〉



株式会社日立製作所 様 (令和4年7月7日)



積水化学工業株式会社 様 (令和4年7月22日)



大家 邦久 様 (令和4年7月22日)



アジア航測株式会社 様 (令和4年7月22日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当 (事務局・学内電話 2017)

(社会共創部広報課)

2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 1st Batchが無事終了

5月28日(土)、2022年度のDEMOLA HOKKAIDO 1st Batchの最終発表の場であるファイナルデモンストレーションを開催しました。今回のファイナルデモンストレーションも前回同様、新型コロナウイルス感染予防対策を取り、オンラインとリアル会場を併用したハイブリッド形式で実施し、北大生だけでなく、北海道教育大学釧路校や東京理科大学などの遠方の学生も参加しました。

今回の参加企業は、株式会社燃焼合成、カタギリ・コーポレーション株式会社、株式会社きのとやの3社で課題はそれぞれ以下のとおりです。

課題

株式会社燃焼合成『その技術は何のため? 「熱」を操り、未来を快適に』

カタギリ・コーポレーション株式会社『レンタル/シェアリングで描く

2030年のライフデザイン』

株式会社きのとや『「きのとや」ブランドが結ぶリレーションシップ』

DEMOLAはフィンランド発の産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり、世界16ヵ国、60大学以上が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み、企業のリアルな課題解決に取り組むのが特徴です。

日本では初めて、2018年から北海道大学が導入し、約4年間かけて25社28課題に取り組む活動を展開してまいりました。参加学生は、北海道大学をはじめ小樽商科大学、北海道情報大学、藤女子大学、札幌市立大学など北海道を中心とした地域の学生でしたが、2020年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、フルオンライン

での開催体制を整えたことから、本州の学生や海外在住の学生の参加も実現しています。

2022年度は全3回に渡り開催する予定で、現在第1回を終え、第2回が8月6日からスタートします。第2回の説明会に参加を希望した学生数は100名を超え、北海道大学からのほか、早稲田大学、明治大学、東京工業大学、東京理科大学、小樽商科大学、旭川医科大学、北海道情報大学、藤女子大学の学生及び留学生の応募がありました。より多様性に富んだメンバーでのディスカッションが実現できることを期待しています。

詳細に関しましては、産学・地域協働推進機構DEMOLA事務局(demola@mcip.hokudai.ac.jp)までお問い合わせください。

(産学・地域協働推進機構)



集合写真 (Final Demo)



集合写真 (きのとやチーム)



集合写真 (燃焼チーム)



集合写真 (片桐チーム)

DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏が 北海道大学を訪問

5月28日（土）から6月3日（金）にかけて、札幌市内で行われた駐日フィンランド大使館主催の北海道フィンランドウィークに合わせ、DEMOLA Global社のCEO Ville Kairamo氏が来札幌しました。

DEMOLA Global社はフィンランドのタンペレで設立した会社で、世界各地のDEMOLAプログラムの運営やサポートを行っています。DEMOLAは産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり、世界16カ国、60大学以上が参加している国際的な企業課

題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み、企業のリアルな課題解決に取り組むのが特徴です。

日本では初めて、2018年から北海道大学がDEMOLA Global社の協力を受け導入し、約4年間かけて25社28課題に取り組む活動を展開してきました。

6月1日（水）にVille Kairamo氏（CEO）、Janne Eskola氏（VP）、Tommi Järvinen氏（Chief Strategist）及びNetta Hongisto氏（Co-creation expert）が北海道大学フード&メディ

カルイノベーション国際拠点（FMI）を訪問し、およそ1時間半にわたり学生との交流会を行いました。当日は、7名の学生と2名の企業担当者が集い、英語、日本語、フィンランド語でDEMOLAの感想やフィンランドにおける最新のビジネストrendなどをトピックに歓談し、フィンランドと北海道の貴重な文化交流の場となりました。

（産学・地域協働推進機構）



集合写真（後列左から3番目がVille Kairamo氏）



交流会での意見交換の様子

スタートアップ・エコシステム形成支援 HSFCプラットフォームキックオフミーティングを開催

北海道大学を主幹機関とする「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC（エイチフォース、“叡智の力”））」は、本年5月に科学技術振興機構（JST）による研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム スタートアップ・エコシステム形成支援の採択を受け、6月24日（金）にHSFCプラットフォームキックオフミーティングを開催しました。

本キックオフミーティングはハイブリット形式で開催し、主幹機関の統括責任者である寶金清博総長からの挨拶

に続いて、オンラインでご臨席いただいた文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課の井上睦子課長からご来賓の挨拶をいただき、我が国のスタートアップ創出の重要性についてお話いただきました。

その後、本事業概要やGAPファンด์公募の説明がなされ、幹事自治体である札幌市から札幌・北海道におけるスタートアップ・エコシステムの構築について説明がなされました。

このキックオフミーティングは、第1回HSFC（エイチフォース）プラッ

トフォーム推進会議を兼ねて開催する形で行われ、各部会の設置や外部委員の選任等がされ、盛会のうちに終了しました。

HSFC（エイチフォース）は、「オール北海道」体制で北海道のスタートアップ・エコシステムの形成に向けた様々な事業を展開し、スタートアップ創出による北海道の産業構造の変革と豊かで住みやすい北海道の実現を目指します。

（社会共創部産学連携課）



開会挨拶を行う寶金総長



来賓挨拶を行う文部科学省の井上課長

令和4年度第1回サステナビリティ推進員会議を開催

サステナビリティ推進機構は、7月1日（金）、令和4年度第1回サステナビリティ推進員会議をオンラインで開催しました。各部署のサステナビリティ推進員及び同補佐の他、施設部職員等合わせて85名が出席しました。

サステナブルキャンパスマネジメント本部長の菅原修孝理事より開会の挨拶の後、次にSDGs事業推進本部長の横田 篤理事・副学長よりサステイ

ナビリティ推進員制度について説明を行いました。

協力要請として、令和4年度夏季の省エネルギー対策の他、「生態環境保全管理方針」希少種リスト植物版の改定や、ゼロカーボン関連専門家リストの作成について説明がありました。

また、THEインパクトランキング2022、「北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動」の実施及び

施設管理2020についての報告がありました。主な議題は下記のとおりです。

サステナビリティ推進機構では、今後も引き続き、部局等と連携を図りながらサステナビリティ推進に関する活動を実施して参ります。

（サステナビリティ推進機構）

議題等

1. サステナビリティ推進員制度について
2. 令和4年度夏季の省エネルギー対策について
3. 「生態環境保全管理方針」希少植物リストの改定等について
4. ゼロカーボン関連専門家リストの作成について
5. THEインパクトランキング2022について
6. FDの実施について
7. 施設管理2020について
8. 今後の施設整備について

本学が評価されたポイント（SDG2）

参加553大学の中で1位を獲得、3年連続国内1位

評価されたポイント例

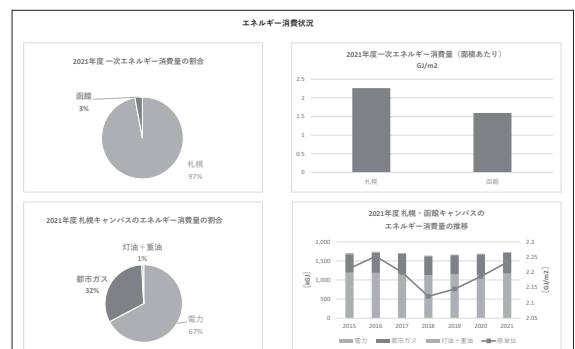
- 学生の食料不安・飢餓に対する取り組み
- 地域の生産者へ食糧安全保障と持続可能な農業・漁業に関する知識・技術等の提供
- 地域の生産者が交流・情報交換するイベントの提供
- 地域の生産者等から優先的に購入することで持続可能な農業を促進

北大マルシェ（いいね！Hokudai）

AIや5Gを用いたロボットの改良

10

THEインパクトランキング2022について説明を行う横田理事



令和3年度エネルギー消費状況の報告（会議資料から抜粋）



会議の様子

■ 部局ニュース

理学部でキャリアパス企画「キャリアカフェ」を開催

理学部は、6月10日（金）、13日（月）～15日（水）、17日（金）、21日（火）の6日間に渡って、キャリアカフェ2022「学部学びのソノサキ・博士課程大学院生によるオムニバスセミナー」を開催しました。これは、理学院及び理学部に関連のある大学院に在籍する博士後期課程の大学院生が、理系学部生、大学院生に対して「聴衆に身近な立場」からキャリアパスについて講演するものです。

はじめに、久保英夫理学院・理学部キャリア委員会委員長が博士人材への

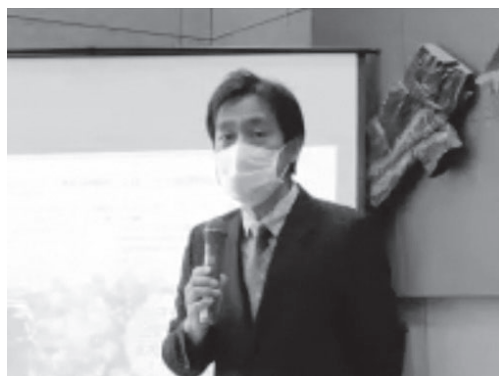
社会の期待やフェローシップ制度等の最新の動向について紹介し、続いて6名の大学院生が日替わりで登壇し、博士課程での研究の魅力や、進路選択にまつわる悩みと決断、将来の展望などを話しました。質疑応答では学部生などから研究や博士進学に関する質問が寄せられました。

Zoomを用いたハイフレックス形式で開催されたセミナーには、会期を通じた延べ人数でオンサイト110名、オンライン60名の参加者がありました。

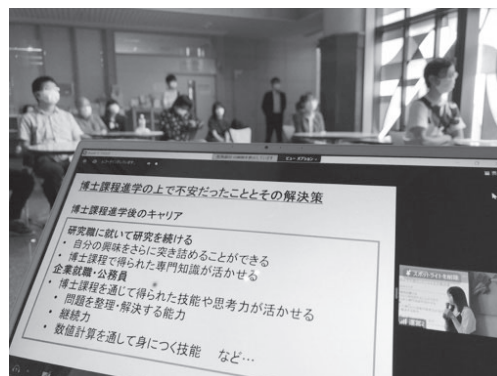
北海道は情報の集まる東京圏から遠

く離れているという地理的条件のため、学生は働くこと、研究を行うことへの心の準備が遅れがちです。博士後期課程大学院生という身近なロールモデルを提示することで、学部生や修士大学院生が博士進学もキャリアパスのひとつとして意識できるようになること、また、将来への不安を払拭し、学部や大学院での活動に対するモチベーションが向上することを期待します。

（理学院・理学研究院・理学部）



フェローシップ制度について紹介する久保委員長



会場の様子



講演する大学院生

令和4年度理学院優秀研究奨励賞授与式を挙行

理学院では、6月29日（水）に理学部大会議室において、令和4年度理学院優秀研究奨励賞授与式を挙行了しました。

この賞は、理学に関する優れた研究を推進する学生を表彰し、研究のさらなるステージアップを支援することを目的に、博士後期課程学生1年生及び2

年生を対象として平成30年4月に設けられました。

今年度は、創造性に富む卓越した研究計画を立案し、これに取り組んでい

る19名が受賞者に選ばれました。授与式では、永井隆哉理学院院长から、この賞の趣旨説明とお祝いの言葉が述べられた後、表彰状が一人ひとり

に手渡されました。今後も、この賞が本学院学生の基礎科学に関する深い洞察力と創造性、研究立案能力の向上を一層喚起するものとなることを期待しています。

（理学院）



今年度の受賞者と永井学院院长（中央左）、
金川眞行理学・生命科学事務部長（中央右）

学生企画ワークショップ「ミュージアム・フォト・ウォーク」を開催

大学院の授業「博物館コミュニケーション特論 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価」の一環として、理学院と教育学院に所属する受講生12名が展示を案内して、参加者に写真撮影していただき、その写真を参加者と受講生とで共有して語り合い、マップを制作するワークショップ「ミュージアム・フォト・ウォーク みる・きく・はなす 博物館入門講座」を開催しました。札幌圏の文化施設が夜間開館して様々な企画を実施するカルチャーナイトに総合博物館も参加した7月22日（金）の夜、そして7月24日（日）の午後、2日間とも2時間、同じ内容で実施しました。

ワークショップの目的は、事前調査した結果を受けて、特にコロナ禍で来館機会の少ない本学の1年生をはじめ来館経験が多くはない方を主対象に、博物館の魅力の一つでも知っていただき、来館のきっかけをつくることです。このため、まず、参加者を3、4名のグループに分けて、受講生が自身の専門分野や関心のあるエリアを解説して案内するツアーを実施し、参加者には気になった展示やスポットを自身のスマートフォンで撮影していただき、その後、参加者同士や受講生と写真を見せ合って各自の視点を共有して館内のおすすめマップを作成し、楽しみ方を見つけていただく内容としました。

最初の「館内散策パート」で受講生が解説したスポットは北大の歴史、北極域研究センター、理学部、獣医学部、地震火山研究観測センター、古生物の部屋、鉱物・岩石の部屋ですが、ツアーを誘導する受講生が他の展示も

紹介しながら全館を巡りました。参加者は展示解説を聞きながら、様々な場所で、思い思いのアングルで気になる展示などを撮影しました。

ツアー後の「博物館の魅力共有するパート」では、参加者各自が多数撮影した写真からお気に入りの一枚を選び、その場で写真を印刷してメッセージを書き込んでいただきました。参加者が互いに写真を見せ合い、受講生もグループに加わって参加者が見出した博物館の楽しみ方を語り合いました。そして、大きなA0判の館内マップにその写真を貼って、2日間の講座参加者と受講生によるマップを完成させました。

2日間の参加者は小学生から20代の本学学生、60代の市民など21名で、来館経験が多い方が4名いましたが、他は初めて、あるいは一度だけ、数回の方々でした。事後アンケートの結果から、受講生が解説した「館内散策パート」も、写真を見せて楽しみ方を語り合った「共有パート」も好評でした。「他の人の写真を見ていろいろな視点があるんだと思った。グループの人といろいろな話ができて楽しかった。知識のある学生から話が聞けて、普段では見過ごしてしまうところをしっかり見られてよかった」、「普段お話しないうちの来館者と感想を共有できるのが面白かった」といった感想が綴られ、全員が再訪を希望しました。

4月から始まったこの授業では、受講生はワークショップを企画して博物館の教員達にプレゼンテーションして実施許可を得て、そしてグループでワ

ークショップを運営するための役割分担やスケジュール管理の方法を学び、実践しました。今後、受講生はワークショップでの参与観察の結果とアンケート回答を更に分析し、この取り組みを振り返ります。総合博物館としては初めてのInstagramを期間限定で運営するといった新しいチャレンジも実施しました。完成した共有マップは館内1階の交流ホール前で9月末まで掲示しますので、ぜひご覧下さい。

授業のプロセスを伝える学生の記事を、次のURLで公開しています。

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/cat/lesson/>

担当学生：浅利百合子（教育学院）、
岩本歩夢・小木夏海・小林華子・菅原維・陳心怡・橋本彩加・林和生・原太郎・
潘若華・舟山草太・山口健介（理学院）

指導：湯浅万紀子（総合博物館）

（総合博物館）



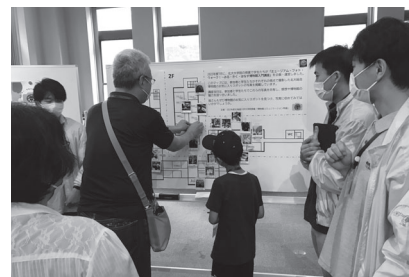
受講生が制作した広報ポスター



受講生による解説ツアー



気になる展示を撮影する参加者達



写真を貼って共有マップを作成

2022年夏・学生企画の新たなミュージアムグッズの販売開始 —「ゾウ&マンモス風呂敷」「発掘！ランダムシール 古生物&土器」—

大学院の授業「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」では、毎年、学生達が総合博物館オリジナルのミュージアムグッズの企画開発を行います。2021年度は2つの新しいグッズを開発し、ミュージアムショップとオンラインショップで販売されています。

トートバッグ「ゾウ&マンモス風呂敷」は、総合博物館で印象に残る展示物の一つであるマンモスとゾウをモチーフにした初めてのグッズです。黒地の風呂敷には、収蔵されているゾウとマンモスの原寸大の白歯と、ゾウとマンモスの姿が、ポップなピンクとライトグリーン色で鮮やかにデザインされています。館内では、2階のマンモスの原寸大模型のほかに、2階の獣医学部展示室にはインドゾウの頭骨が、3階の古生物の部屋にはマンモスの白歯が展示されています。風呂敷には、専門教員の監修を受けて受講生が制作した解説シートが同封されており、これらの標本に関して特に歯の生え方に注目した詳細な説明が施されています。

100センチ四方の大判サイズの風呂敷は標準箱も包める大きさ、旅先での衣類を包んでスーツケースに収めても便利です。水と汚れに強い「超撥水」仕様であり、濡らしたくないものを包んだり、レジャーシートや雨よけとして使用したり、災害時には水を運ぶバケツがわりに防災グッズとしてもご利用いただけます。

「発掘！ランダムシール 古生物&土器」は、3枚のフレイクシールが入ったグッズで、くじ引き方式で購入していただく仕掛けになっています。モチーフは古生物と土器で、デザインと色は全8種類です。古生物シールは、博物館3階の古生物の部屋に展示されているニッポノサウルスとデスモスチルス、マチカネワニの骨格標本を3Dスキャンした正面と側面の画像から製作されています。土器シールは、北海道大学埋蔵文化財調査センターと博物館に収蔵されている北大式土器とオホ

ーツク式の実測図から製作されました。

いずれにも落ち着いたダークな色とファンシーなパステル調の色のバリエーションがあります。気軽に購入していただける価格設定とし、そしてくじ引き形式とすることで何が当たるかわからない楽しさを味わっていただきたいと企画しました。ほかに、「当たり」を引いた方には学生企画グッズ「博物館タンブラー」をさしあげます。

くじ本体のパッケージには、専門教員の監修を受けて受講生がまとめた各標本の簡潔な説明が示されています。

■「ゾウ&マンモス風呂敷」

サイズ他：100 cm x100 cm

超撥水仕上げ

価格：5,500円（税込）

■「発掘！ランダムシール 古生物&土器」

サイズ他：全8種類（1点に3枚封入）

の他、当たりシールあり。

3cm四方・一部に長いシールもあり。

価格：各100円（税込）



「ゾウ&マンモス風呂敷」



くじ引き方式で販売されているランダムシール

2021年度理学院専門科目・大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」

担当学生：安達寛子（生命科学院）、池田柊・大藪隼平・森本智郎・Mohammed Galib Hasan Abir（理学院）、堀井元章（総合化学院）、横山由奈（国際広報メディア・観光学院）

デザイン：風呂敷／安達寛子・森本智郎、ランダムシール／大藪隼平・横山由奈

監修：風呂敷／江田真毅（総合博物館）、ランダムシール／守屋豊人・高倉純（埋蔵文化財調査センター）、江田真毅・小林快次（総合博物館）

協力：北海道大学埋蔵文化財調査センター

指導：湯浅万紀子（総合博物館）

（総合博物館）



8種類のランダムシール



「発掘！ランダムシール 古生物&土器」を開発した学生達

歯学研究院デンタルイノベーションスペースに 北海道曹達株式会社が入居

7月1日（金）、歯学研究院に設置するデンタルイノベーションスペースに北海道曹達株式会社が入居しました。

デンタルイノベーションスペースは、歯学研究院の研究戦略に基づき、歯学研究院の研究者と企業が協力関係をもって展開する事業に必要な場所を提供することによって、歯学研究の活性化を促進させるとともに、歯学研究院の有する研究シーズを基盤とした医療産業創出及びその担い手となる若手人材の育成に寄与することを目的として設置されました。本スペースは、歯学研究院建物のリニューアル工事を行

う際、実験室・実習室等を見直すことで捻出した6階の約400㎡のスペースで運用されています。本スペースの利用を希望する企業は、最初にプレインキューベーション契約を締結した上で歯学研究院の研究者と互いの所見や手法・技術に関する情報交換を行い、本スペースの設置趣旨に合致する事業計画の策定に至った場合に改めて利用契約を締結して入居するという流れとなります。

この度の入居に際し、7月11日（月）に北海道曹達株式会社の難波正義代表取締役社長、沖中端見専務取締

役ほか関係者が来学され、網塚憲生研究院長、八若保孝副研究院長らと、入居後の事業推進や展望について意見交換が行われました。

今後、両組織が相互に協力することで、基礎研究から臨床応用といった社会実装に向けた研究成果の創出や若手人材の育成、ひいては北海道地域における産学連携のロールモデルの1つとして発展していくことが期待されます。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



意見交換の様子



（左から）沖中専務取締役、難波代表取締役社長、網塚研究院長、八若副研究院長

メディア・コミュニケーション研究院が公開講座 「ベルリン：都市は変貌する」を開催

メディア・コミュニケーション研究院では、5月25日（水）から6月22日（水）にかけて、全5回の公開講座「ベルリン：都市は変貌する」（講師：西村龍一）を開催しました。

ベルリンはその名前が13世紀に初めて登場する都市で、ロンドンやパリは言うに及ばず、同じドイツのハンブルクやミュンヘンに比べても新興の都市でした。しかしその比較的短い変貌の歴史には、中世から現代に至るまでのヨーロッパの歴史のエッセンスが、凝縮された形で詰まっています。この講座ではそれを、第1回「誕生からフリードリヒ大王まで」、第2回「ドイツ統一から帝国の首都へ」、第3回「ドイツ革命からナチ時代へ」、第4回「復興と壁」、第5回「ドイツ再統一：その首都として」という講義で辿りました。

講義のひとつのポイントは、都市に

存在する具体的な建造物が、歴史の変遷においてその名前や意味を変えることです。たとえば「ノイエ・ヴァッヘ」は、19世紀初めにベルリン王宮の衛兵所として新古典主義の様式で建築されました。その後、第一次世界大戦後には「世界大戦戦没者記念所」、東ドイツ時代には「ファシズムと軍国主義の犠牲者のための警告碑」、再統一後には「戦争と暴力支配の犠牲者たちへ」と、追悼の名称が変化するだけでなく、それに応じて内装も変わっていきます。そうした変貌を多くの写真資料で説明していきました。もうひとつのポイントは、日本でも見ることができるベルリンに関係した映画を多く紹介したことです。1980年代の『ベルリン天使の歌』には、今は見ることができない東西分断時代の荒涼としたポツダム広場が映っています。2012年の

『帰って来たヒトラー』では、ブランデンブルク門の観光客の間を歩き回り、彼らにカメラを向けられる〈ヒトラー〉が映ります。この映画、ドイツ語の原題は「彼はまたそこにいる」です。昨今の世界情勢との連想をはからずも喚起することになりました。

Zoomによるオンライン開催ということで、札幌や道内のみならず関東圏、遠くは長崎からの参加があり、受講者の中には、この後、文法書からドイツ語を勉強したいというメールを寄せられた方もいました。ベルリンの複雑な歴史と文化を通じて、ドイツにこれまで以上に関心を持ってもらえたのではないかと思います。

（メディア・コミュニケーション研究院）

ブランデンブルク門の建築

- ・フリードリヒ・ヴィルヘルム2世によって1789-1793年に建築
- ・本来はローマ風の凱旋門ではなく新古典主義＝ギリシア風の「平和の門」
- ・しかし上部は凱旋門風。「クワドリガ（四頭立ての馬車）に乗る勝利の女神ヴィクトリア
- 勝利が平和をもたらす。オランダ侵攻（解放）の自己賛美
- ※現在も同じようなことを言っている権力者が…



講義のスライド

「ようこそ北大へ！－新生活を彩る、役に立つ！おすすめ本－」 図書展示を開催

4月25日（月）から7月1日（金）まで、附属図書館（北図書館）で「ようこそ北大へ！－新生活を彩る、役に立つ！おすすめ本－」図書展示を開催しました。これは北大生協書籍部と連携して実施したものです。

新入生向けに、新生活をより豊かに

してもらおうと「アカデミックスキル」「ライフスキル・コミュニケーション」「新生活応援」「北海道」の4つのカテゴリーに分けて展示を行いました。また生協のおすすめ本にはPOPを添え、自分の手元に長く置きたい本については店頭で購入できることを紹

介しました。

期間中は展示図書290点のうち246点が貸し出され、学生の新生活に大いに役立ったことが窺えました。

（附属図書館）



図書展示の様子



POPを添えた展示図書

附属図書館で「Mendeley（メンデレー）」 オンライン講習会を開催

附属図書館では6月27日（月）、29日（水）にエルゼビア・ジャパン株式会社の井上淳也氏を講師に招き、「Mendeley（メンデレー）」オンライン講習会をZoomにより開催しました。

Mendeleyは、学術文献の管理とオンラインでの情報共有を目的とした無料の文献管理ツールで、多数の文献管理を必要とする学生や教員からも注目されています。

例年同様、今回の講習会でも、はじめてMendeleyを使う学生やパソコンの操作が苦手な学生にも気軽に参加してもらえるように、前半で講師の説明のもとでアカウントの取得からプラグインのインストールを行い、後半で実際の文献の管理方法までMendeleyの使い方を一通り習得する2部形式で実施しました。

開催後のアンケートでは、この講習

会について「非常に役に立った」「役に立った」との回答が全体の89%を占めました。また、今回の講習会で役に立った内容では、今回はじめてMendeleyを使ったという受講者の82%が「Mendeleyのセットアップ」と回答しており、多くの受講者に満足してもらえる結果となりました。

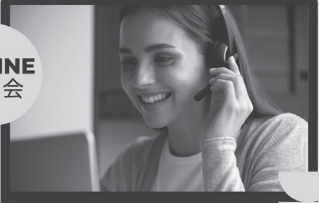
（附属図書館）

文献管理ソフトを使いこなそう！

基礎からはじめる MENDELEY

～セットアップから実際の使い方まで～

**ONLINE
講習会**



6月27日（月）、6月29日（水）で開催！

※どちらも内容および時間帯は同じです。

第一部：セットアップ編	第二部：実際の使い方編
14: 45-15: 15 講師の説明に合わせて 自分のPCにセットアップ。	15: 25-16: 15 セットアップ済の自分のPCで MENDELEYを使ってみよう！

お申込はWEBから。

<https://www.lib.hokudai.ac.jp/2022/06/01/04156/>

お問合せ先：附属図書館学習支援企画担当
nref@lib.hokudai.ac.jp



開催告知ポスター

スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム 「アナーキスト的転回？長い20世紀における帝国支配と抵抗」開催

国立大学の新しい中期計画に伴って研究活動を再定義すべく、スラブ・ユーラシア研究センターでは4月から「生存戦略研究」というプロジェクトが始動しています。米欧中心の世界秩序が退潮する中で移行期的な危機が頻発しているとの認識からこのプロジェクトを昨年から構想していたところ、ウクライナ戦争が勃発し、事態の急変にいささか戸惑いながら当センターでは、4月を待たずして様々なセミナーを催してきました。今年の夏期シンポジウムは、この「生存戦略研究」で最初の国際シンポジウムとなります。

ヨーロッパの植民地帝国に関する研究では過去10年ほど、各帝国に反抗する人々が、1870年代からグローバル化が急速に進展する中、治安機関の追跡から逃れる過程で、様々な地域出身で同じ境遇の個々人と接触を繰り返し、水平方向のネットワークをつくり、コスモポリタンな主体を獲得していたこ

とに関心が集まっています。今回のシンポジウムでは、こうした近年の史学史上的変化を「アナーキスト的転回」と名付け、ロシア帝国とソ連を世界史の時空間に置くことを試みました。そして、抵抗する小さな人間の水平方向の連帯と垂直方向にそびえ立つ国家権力（帝国と国民国家）が複雑に絡まり合いながら20世紀を形作ってきた側面に着目しました。

7月7日（木）・8日（金）に開催した今回のシンポジウムは、感染対策に万全を尽くした上で、観客は入れず、対面とZoomを併用する方式で行いました。2年ぶりの対面会議とあって、会場に集まった20名ほどの報告者と討論者は、議論や会話を大いに楽しみました。また、オンラインでも30名ほどの参加があり、どのセッションも活況を呈しました。

ウクライナ戦争で冷戦後の国際秩序が終わったという議論を最近とみに聞

きますが、この戦争はもっと長期的な地殻変動と連関しているのではないのか、それは19世紀末から始まる「長い20世紀」の終焉を告げているのではないのか、「新冷戦」ではなく何か新しいものが生まれつつあるのではないのか。各集団や個人は、それぞれの時期にどのような言葉、概念、行動を駆使して大きな支配秩序に抗いながら、生き延びてきたのか。そのようなことを考え、意見を交わしていた折も折、2日目午前のセッションの終わりには、安部元首相銃撃のニュースが飛び込んで来ました。2022年は、世界が深い混乱に陥っていく転換点として歴史に刻まれるかもしれません。「生存戦略研究」を立ち上げたことについて緊張感と責任感を新たにしました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



会議終了後の充実の表情

情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターが「Security College for Youth 2022 step 1」を開催

7月9日（土）及び10日（日）の2日間にわたり、情報基盤センター・サイバーセキュリティセンター等が主催する「Security College for Youth 2022（SC4Y）step1」を、情報基盤センター南館で開催しました。

本イベントは、北海道地域における情報セキュリティ意識の向上と情報セキュリティ人材の育成を目的として、産官学連携組織である北海道地域情報セキュリティ連絡会と共に主催し、一般社団法人LOCAL・北海道情報セキュリティ勉強会・（公法）公立千歳科学技術大学・北海道ハイテクノロジー専門学校の協力のもと、17名が参加しました。

1日目は、北海道警察による「情報倫理」の講義の後、管理者としてサイバー攻撃から購買サイトを守る競技仕立てのシミュレーション「Hardening」の簡略版である「chobi hardening」を体験したのち、既知脆弱性の検証を通じて研鑽を深める「Webサーバ脆弱性対応演習」が行われました。2日目は、視点を変え、「インシデントハンドリング」と呼ばれている、攻撃に遭った後の対応や事後処理などを模擬的に体験する演習の後、1日目と同じ「chobi hardening」に再度挑み、研鑽の成果を確認しました（写真提供：一般社団法人LOCAL）。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止策とし

て、参加人数の制限・事前の感染防止対策周知・入館時の検温・消毒・一部オンライン会議システムの併用等を行いました。

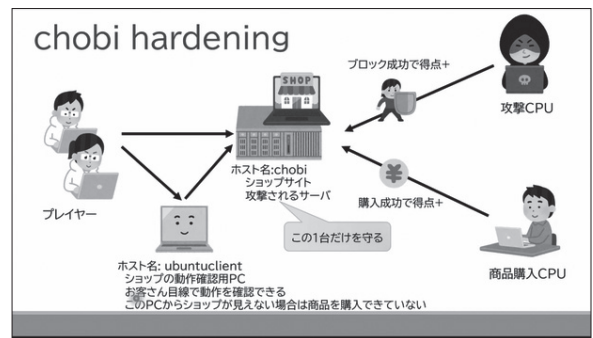
本イベントは今年度のSC4Y活動の第1段階（step1）であり、今後、サイバー攻撃への防御や対処に資する技量を磨くためのイベントを年度内に複数回実施予定です。

情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターは、SC4Y等の社会的活動を通じ、地域のサイバーセキュリティ水準の向上や意識啓発に、今後も貢献してまいります。

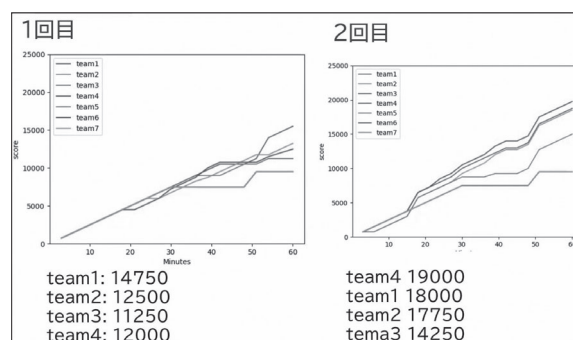
（情報基盤センター）



北海道警察「情報倫理」講義



“chobi hardening” 概要



1日目と2日目の結果

写真提供：一般社団法人LOCAL

第1回北の森林サイエンスCAFEを開催

7月1日（金）に、北方生物圏フィールド科学センター北管理部の主催で、「第1回 北の森林（きたのもり）サイエンスCAFE」を開催しました。これまで北管理部には市民が集まるスペースがなかったのですが、4月に完成した新棟には十分な講義室があり、開催が可能となりました。

サイエンスCAFEでは、東川町にある木と暮らしの工房・代表の鳥羽山聡さんから「白樺プロジェクト—森林と生活者を結ぶ」、本センターの吉田俊也教授から「大学—地域のつながりで広がる森林研究」という演題で講演がありました。

鳥羽山さんの話では、シラカンバは

北海道を代表する樹木であるにもかかわらず、林業界ではこれまであまり利用されてこなかったこと、白樺プロジェクトでは、付加価値がついた形でシラカンバを材料にした家具などが製品化していること、シラカンバは幹の部分をも材として利用するだけでなく、枝葉や樹液、樹皮など一本丸ごと利用できることなどの紹介がありました。また、吉田教授からは、実際にシラカンバの種子や芽ばえを手にながら、シラカンバの生態的な特性や、北大研究林でこれまで行われてきた自然の力を利用したシラカンバの森づくり方法に関する研究紹介がされました。

イベントには、道北地域の民間や自

治体の林業関係者、森林で取れる材料を利用して制作活動をしている作家、登山ガイド、大学院生など、多様なジャンルの方が合計20名以上参加しました。

講演の合間には、研究林産のシラカンバを使って作られた椅子や机があるコワーキングスペースにおいて、コーヒーを飲みながら議論に花が咲いていました。今後も、サイエンスCAFEは定期的に開催し、他分野にわたる森林関係者が北国の森やそこで行われている様々な活動について理解を深める場となれればと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



木と暮らしの工房・代表 鳥羽山聡さんの講演の様子



北管理部長 吉田俊也教授の講演の様子



コワーキングスペースにおいてコーヒー片手に語り合う様子



サイエンスCAFE受付

■お知らせ

被扶養者の要件の確認

文部科学省共済組合資格に係る被扶養者の要件の確認を本年9月中に行います。

ついては、現在認定を受けている被扶養者の資格確認に必要な書類※を被扶養者申告書に添付の上、所属している部局等の共済事務担当係へ速やかにご提出ください。

(※ 資格確認に必要な書類とは、所得に係る証明書類や住民票謄本及び在学証明書などの公的な書類のことです。)

また、転居により被扶養者の住所に変更が生じている場合は、本確認とは別に記載事項の変更に係る手続きをしてください。住所に誤りがある場合、国家公務員共済組合連合会より送付される「ねんきん定期便」が正しく届かない場合がございますのでご注意ください。(組合員の住所変更時も同様です。)

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。被扶養者の要件の確認に係る詳細は各部局等の共済事務担当係までお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
4.7.25	ハワイ大学マノア校（アメリカ合衆国） 柳町 隆造 名誉教授	今後の交流に関する懇談



柳町 隆造 ハワイ大学マノア校名誉教授（左から3人目）

（国際部国際連携課）

人事

令和4年8月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 大学院工学研究院教授 北海道大学病院教授 国際連携研究教育局教授	伊 藤 真由美 向 野 雅 彦 ROWLANDJONES SARAH LOUISE	大学院工学研究院准教授 （採用） （採用）

新任教授紹介

令和4年8月1日付



工学研究院教授に

いとう まゆみ 氏
伊藤 真由美 氏

環境循環システム部門
資源循環工学分野

生年月日

昭和46年7月23日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成12年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

地球資源工学、リサイクル処理工学、選鉱学



北海道大学病院教授に

むかいの まさ ひこ 氏
向野 雅彦 氏

リハビリテーション科

生年月日

昭和53年10月4日

最終学歴

慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程単位修得退学（平成21年3月）
博士（医学）（慶應義塾大学）

専門分野

動作分析、活動モニタリング、生活機能統計



国際連携研究教育局教授に

サラ ルイーズ ローランドジョーンズ 氏
SARAH LOUISE ROWLAND-JONES 氏

バイオサーフィス創薬グローバル
ステーション（オックスフォード大学）

最終学歴

英国 オックスフォード大学 博士課程修了（平成7年10月）
免疫学博士（オックスフォード大学グリーンカレッジ）

専門分野

臨床免疫学

訃報

名誉教授 加藤^{かとう} 誠^{まこと} 氏
(享年90歳)



名誉教授 加藤 誠 先生が令和4年6月26日にご逝去されました。

加藤先生は、昭和7年3月21日に宮城県で生まれ、同29年3月金沢大学理学部地学科を卒業後、総理府に着任され、同31年4月北海道大学理学部地質学鉱物学専攻修士課程に入学し、博士課程に進まれた後、同37年に理学博士の学位を取得されました。その間、昭和

34年から1年半ほどを英国文化振興会奨学生としてインペリアル・カレッジ・ロンドンに留学しておられます。昭和36年6月に同教室層位学講座の助手に着任され、昭和45年に同助教授、昭和56年に同教授に昇任されました。平成7年3月に退職された後も国際協力機構（JICA）のインドネシア派遣専門家、札幌国際大学教授、スウェーデン地質学会終身会員、北海道スウェーデン協会会長、北海道日英協会理事など国内外において地質学の教育と普及に従事されました。加藤先生はまた、スウェーデン・ストックホルム大学、中国地質大学、中国科学院南京地質古生物研究所、オーストラリア・クイーンズランド大学、ベルギー・リエージュ大学、ドイツ・フランクフルト大学などの客員教授としてご尽力されました。

研究面では、北海道大学において故

早坂一郎、湊 正雄両先生の指導を受けられた後、中・古生代の地質、特にサンゴ化石など古生物学研究で多大な功績をあげ、国際的に評価される業績を残されました。一方で、地盤・地震などに関する応用地質分野や防災行政面でも貢献されるなど、古生物学以外の分野でも後世に残る活躍をされました。加藤先生の一連の研究成果に対しては、昭和45年日本古生物学会学術賞（日本古生物学会）、昭和55年日本地質学会小藤賞（日本地質学会）、昭和63年日本地質学会論文賞（日本地質学会）が授与されております。

加藤先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なご貢献に感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(理学院・理学研究院・理学部)

編集メモ

●今年度もAcademic Fantasistaがはじまります

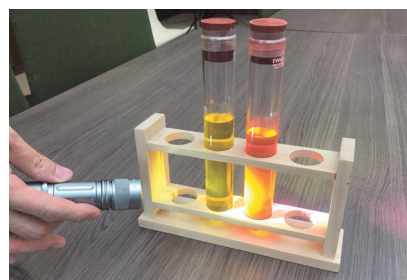
本学の第一線の研究者が出張講義等を通じて高校生に研究を伝える「Academic Fantasista（アカデミックファンタジスタ）」。

2012年度より北海道新聞社と連携し、本学の「国民との科学・技術対話」支援事業の一環として

実施しています。2022年度も8月から順次講義を開催予定です。7月某日、Academic Fantasistaを紹介する新聞広告用の写真撮影が行われました。広告の完成版は9月号に掲載予定ですので、お楽しみに。



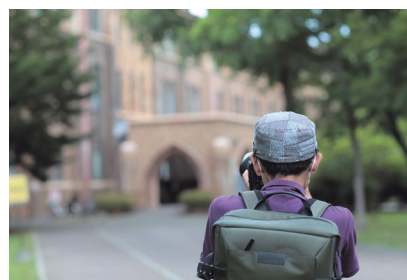
研究者の撮影風景



研究に関連する小物も多数登場



獣医学教育に使われる犬のぬいぐるみ



背景用にキャンパス風景も何カットか撮影

- 9月24日（土）にホームカミングデーが開催される予定です。ライブ配信のほか、有観客で行われるイベントもあります。詳細は9月1日（木）に公開予定の下記ホームページよりご確認ください。

<https://www.hokudai.ac.jp/home2022/>

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景はエルムの森です。この日はちょうど芝刈りをしており、暑い日差しの下で作業員を乗せた芝刈り機があちこちを走り回っていました。刈り揃えられた芝生の中で、すくくと立ち上がる植物が一本。どっしりと根をはったハルニレの大木が成長を見守っているようです。

キャンパス風景 29 エルムの森（北10条西8丁目）



北大時報 ⑧ No.821 令和4年8月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>